

研究所だより

第430号
2021年 6月18日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ あめあめ ぶんぶん かあさんが
じゃのめで おむかい うれしいな
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン ”
「あめふり」 日本の童謡 1925年(大正14)



～新緑がまぶしい季節となりました！～

新年度がスタートして2ヶ月半が過ぎました。各学校ではプール開きも終わり、水泳授業が始まっていることでしょう。これから暑くなってくると川や海へ行く機会が増えてきます。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に水難事故防止に努めていただきたいと思います。

新型コロナウイルスは、まだまだ厳しい状況にあります。一人ひとりが状況を把握し、感染防止対策(マスク着用、手洗い、うがい、3密回避、体調の管理)の徹底継続を心がけましょう。

☆2021年度転入教職員地域学習会開催☆

本年度第1回転入教職員地域学習会を5月18日(火)中央公民館において開催しました。前半は教育長より本市の教育行政方針並びに教育長の思い等を、後半はじんけん課長より本市の人権教育の取組等について話していただきました。そして、第2回転入教職員地域学習会を6月10日(木)竜串福祉センターにおいて開催しました。前半は館長より竜串地区の概要と福祉センターの役割等についての講話とフィールドワークを、後半は地元講師による講話『私が受けた人権教育』を拝聴しました。

①第1回学習会



〔教育長の講話〕



〔じんけん課長の講話〕

②第2回学習会



〔館長の講話〕



〔フィールドワーク〕



〔地元講師の講話〕

～感想～

＝第1回＝

○ 市全体の実情や取り組みを知ることができ、土佐清水市についての理解を深めることができました。また、教育長の学校現場での実践も同時に聞くことができ、児童・保護者との信頼関係を構築することの大切さを改めて知ることができました。事実確認をすること、早い対応を心がけることを頭の中に入れ行動していきたいと思います。

人権については、次回のフィールドワークでさらに地域の実態の理解を深めていきたいです。

行動計画にも目を通し、誰を対象に具体的にどのような取り組みを行っているのかを十分に理解し、教育活動を行っていききたいと思います。

＝第2回＝

○ 今日、学習会を受けて一番心に残った言葉があります。それは「条件が合えば、いつでも人を差別する我が身」です。毎日、子どもたちと接している中で、子どもたちを大切にしたい、子どもたち同士でお互いを大切に思い合える子どもたちに育てたいと思っています。ですが、私自身が正しいと思っていることも正しくないかもしれません。私も条件が合えば、人を差別したり、傷つけたりしているかもしれません。それを防ぐためには(子どもたちの前で、一緒に人権教育を進めていくには、)学ぶしかないのかなあと思いました。

考えさせられる2つの講座になりました。準備等、お世話になり、ありがとうございました。

☆第1回教育研究所運営審議会開催☆

6月1日(火)に2021年度第1回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度の役員選出と事業計画(下記事業計画参照)の説明、意見交換を行いました。役員として、会長に矢野川 清さん、副会長に佐竹 正史さんが選出されました。役員、委員の皆様よろしくお祈りします。

〔2021年度要覧より〕

＝本年度の主な事業＝

(1) 教職員の資質・指導力の向上の取組

- ① 転入教職員研修会の開催(年2回: ①5/18 ②6/10)
- ② 校内研修や教育活動への支援

(2) 授業力の向上の取組

- ① 教育研究活動による事業: 教育研究集会(市教研活動)の運営: 9部会
- ② 教育研究推進による事業: 研究協力校(2校: 三崎小・清水中)
- ③ 学力向上検討委員会

(3) 豊かな心と健やかな体の育成の取組

- ① 実態把握のための定期的な学校訪問
- ② 特別支援教育コーディネーター(あすなるネットワーク)連絡協議会の開催(年4回)
- ③ 適応指導教室「あすなる教室」との連携
- ④ SSW・SC(アトリーチ型)との連携

(4) 特別支援教育支援

(5) 情報教育に関する事業

(6) 資料収集に関する事業

(7) 刊行物

- ① 『研究所要覧』の発行
- ② 『清水の教育』の発行
- ③ 『研究所だより』の発行

(8) 教育研究所運営審議会(年3回: ①6/1 ②11月予定 ③3月予定)

(9) 高知県教育研究所連絡協議会(年2回)

- ・ 第1回春季教育研究所連絡協議会(5/28 オンライン会議)
- ・ 第2回秋季教育研究所連絡協議会(11/29 香美市大会・大宮小)



＝研究協力校の紹介＝

前号でお知らせしました「三崎小学校」「清水中学校」の研究テーマ、研究概要を紹介します。

<三崎小学校> 一校長：岡村 相良

研究主任：畠中 明美

1. 研究テーマ

「地域の特色を生かし『地域との連携・協働』による自立をめざした児童の育成」

2. 研究の概要

第3期高知県教育振興基本計画の6つの取り組みの基本方針の一つである「地域との連携・協働」及び土佐清水市教育振興基本計画Ⅲの6つの取り組みの方向性の一つである「地域との連携・協働」を推進する為、総合的な学習の時間や社会科等の時間を中心として、地域の方との豊かな出会いを通して地域の方の温かさや自然を再発見し、児童の自立を目指す。

『目標』

- ① 地域の人達との交流や自然の中での体験活動を通じて、歴史や課題を理解し故郷を愛する心情を育てる。
- ② 「山・川・海の学習」を通じて地域や文化について学び理解を深める。
- ③ 森林の持つ意義と大切さを学び、これからの環境について考える。

『活動計画』

- ・校内及び周辺環境整備（上級生・地域の方々・保護者）
- ・シュノーケリング体験（サンゴ生態学習）・川の生物調査・間伐体験・グラスボート乗船・ガイド体験等。学校周辺の海・川・山の学習の一環として体験学習をし、地域の豊かな自然と生き物に触れ環境を大切にしようとする意識化。（高）
- ・夏休み期間中に各地区子ども会で川清掃等。
- ・海洋館見学：海洋生物 生態を学習（全）
- ・田植え（高）、稲刈り（高）、精米 餅つき大会（全）を通して、食物の恵みや山と川のつながり等を考える。
- ・フィールドワーク・・・ビニールハウス、土佐食、ケンピ工場等地域の工場や施設の見学。
- ・デイ サービスへの訪問。（1年、2年、5年、6年）
- ・高齢者の方への絵手紙の発送（全）



<清水中学校> 一校長：斧川 哲也

研究主任：橘 智子

1. 研究テーマ

「主体的な学びに向けたICTの活用」 ～タブレット端末の有効活用を探る～

○研究テーマ設定の理由

本年度、土佐清水市においても生徒1人1台のタブレット端末が活用できる環境が整う状況になってきた。新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている中、生徒1人ひとりが生き生きと学ぶスタイルのひとつとして、このタブレット端末を授業を中心として活用することを試行する中で、何ができるのか、そして、何がどこまでできたのかを学校全体の取組として行っていきたい。

また、授業以外の面でも、生徒の健康に関する自己管理のためのツールとしての活用やWeb会議システム（GoogleMeet）を活用したオンラインでの交流方法の実践も検討していきたい。

2. 研究の概要

(1) 研究内容

- ①授業におけるタブレットの活用方法を探る。（資料提示、振り返り、意見集約等々）
- ②総合的な学習の時間の成果と課題を発表する表現・発信ツールとしての活用方法を探る。
- ③県教委の学習支援プラットフォーム（まなびばこ）を、授業や帯タイム、そして家庭学習などでどんな活用ができるのか探る。
- ④Web会議システム（GoogleMeet）を活用して、状況に応じたオンラインでの交流方法を検討し、実践する。

(2) 研究体制

- ①教科における実践は、各教科部会での協議・検討をもとに実践する。
- ②総合的な学習の時間における活用は、各学年部会で協議・検討し実践する。
- ③家庭学習への活用方法は、学び部会を中心に検討し実践を試みる。
- ④健康管理のためのツールとして活用する方法については、養護教諭を中心に検討する。

(3) 研究計画

<1学期>

- タブレットを生徒1人1台配布し、使用方法・ルール・マナーを指導
- GoogleClassroom&Formを活用したアンケート調査実施
- 県教委学習支援プラットフォーム（まなびばこ）の活用開始
- 7月英語授業づくり講座でタブレット活用①

<夏季休業中>

- タブレット活用推進のための校内研修実施

<2学期>

- GoogleMeetを活用して体育祭、文化祭をオンライン配信（GoogleMeet活用）
- 10月英語授業づくり講座でタブレット活用②
- 学習成果発表のためのGoogleサイトの活用方法を学習
- 参観日の参観授業をオンラインで保護者対象に試験配信
（Youtube活用 限定公開 or 非公開方式で行う）

<3学期>

- 活動の総括・・・成果と課題の検証、次年度に向けた構想作成

